



第26回 アイム・ジャパン 作文コンクール

最優秀賞

題名 『 初めての桜 』

氏名	ティヌルジャー
出身国	インドネシア
会社名	社会福祉法人 旭川たいせつ福社会
職種	介護
担当支局	北海道支局
入国日	2024年3月14日 1年目

初めての桜

シティ ヌル ジャナー

私が日本に来たのは、2024年3月中旬でした。寒さも過ぎ去り、ちょうど春を迎えるころです。私の到着を歓迎するかのようになり、花々が美しく咲き始めるのを想像するだけでとてもわくわくしたのを今でも覚えております。

しかし、到着後は桜を見る機会がありませんでした。初めの1か月は、たくさんの方のことを学ばましたが、とても大変な生活でした。

埼玉トレーニングセンターに来た初日は、驚きとプレッシャーでとても落ち着かない1日でした。あらゆる動作を速くしなければならなかったからです。初日は夕方からの活動だったので、クラスメイトと交流する時間がなく、残念でした。その日の夕食は、長旅の疲れが吹き飛ぶほど美味しかったです。夕食後、自分たちの部屋へ行くように先生から言われたとき、じちはん驚きました。重さ20kgを超えるスーツケースを、階段で持ち上げて

2階の部屋まで運ばなければならなかったか
らです。残った力でようやく運び、なんとか
部屋に入れることができました。

毎日、朝が早いので大変でしたが、環境に
も慣れて、学ぶことが増えるほど楽しく感じ
ました。私たちは限られた日本語しかわかり
ませんが、他の国から来た友達と母国語でな
くても簡単なコミュニケーションをとること
ができてうれしかったです。

トレーニングセンターに来て3週間経った
ころ、桜の蕾が開き始めるのが部屋の窓から
見えしました。外に出られなないので、いつも窓
から覗いていました。蕾が「日本へようこそ」
と私に言っているようでした。日本に来た実
感が持てました。

トレーニングセンターでの1か月が終われ
ば、次は仕事の世界を生きることになります。
最後の日、やっと満開の桜を間近で見ること
ができました。泣きそうになりましたが、バ
スの時間が迫っていたので泣く暇もありません

んでした。大変な日々 of 最後に、外の空気が
感じられたので本当に嬉しかったです。でも、
クラスメイトたちと離ればなれになっ
てしま
うことに寂しさも感じました。過酷な日々で
はありましたが、私はたくさん of 幸せや愛情
を受け取る
ことが
できました。

4月、今の職場がある北海道旭川市に
来ま
した。空港に着いたとき、会社の人たちが、
太陽の光に照らされた桜のようにとても温か
く迎えて
くれました。北海道にはまだ雪が残
って
しま
した
が、2週間ほどで春になりました。
とても暖かかった
ので、桜を間近で見た
り、写
真を撮
ったり、ピクニックを
したり、
思う存分
楽しめ
ました。「お母さん、”ピク
ニックを
しな
がら桜
を見
る”と
いう
私の願
い
が、一
つ叶
いま
した」と
涙を流
しな
がら、
一人
そっ
とつ
ぶや
きま
した。

今では、施設の利用者さんたちと一緒に桜
を見
る機
会も
あり
ます。
これ
か
ら、
そ
れ
ぞ
れ
の
季
節
を
楽
し
く
過
ご
し
た
い
と
思
っ
て
い
ま
す。